※1
幼小通信「３分くらいで読める遊びの話」　2024年12月19日(木)　山形県教育委員会　vol.0008

3分くらいで読める遊びの話

園内研

質向上の鍵となるのは

保育の更なる改善に向けて、様々工夫しながら取組んでいる幼児教育施設は数多くあります。本号で紹介する認定こども園もその中の一つです。管理職がリーダーシップを発揮しつつ、保育者一人一人が子供と共に成長していく過程を大切にし、日々の気付きや悩みを互いに共有しながら、保育の質向上に向けて継続・発展的に取組んでいるところです。全職員が「幼稚園教育要領（解説）」を拠り所とし、目の前の子供の育ちを心から願い、それを具現化していくため、まさに「環境への探究」を進めています。

保育者のここがすごい ―全職員協働の園内研修―

保育後に全職員が集まり、この場面をビデオで振り返りました。A児たちのこれまでの遊び、育ちについても語られました。A児は普段からイメージ豊かで、いろんなことを見つけて遊んでいるということや、B児は転園からまだ間もなく、今も少し不安定な日々が続いていて、今日も担任団で連携して丁寧に見守っていたことなど。ビデオや画像に映る、「みんな来てー」と、生き生きとした声で叫ぶB児の姿、好きなことを見つけ、内なる思いが今溢れ出ているB児の姿に「あのB児がー」と、涙を浮かべる保育者もいました。当園の保育の質向上のテーマは「自発的な活動としての遊び」の問い直しです。子供の主体性って何だろう、その子の遊びがもっと充実していくための援助・環境の在り方って何だろうと、保育記録と園内での語り合いを、今年本格的にスタートさせています。例えば園庭のあちこちに敢えて刈らずに残されている猫じゃらし等の雑草や、A児が見つけたお魚（大きな石）も、園内研修を通した保育者の意図的な環境構成の一つでした。自分で環境を選び取りながら遊ぶ過程の中で、自らの発達課題を自ら乗り越えていったB児らの育ちと保育に、是非当園の先生方には喜びと手応えを感じてほしい。そして、更なる実践の積み重ねと園内研修の充実・発展を、心から期待したい。

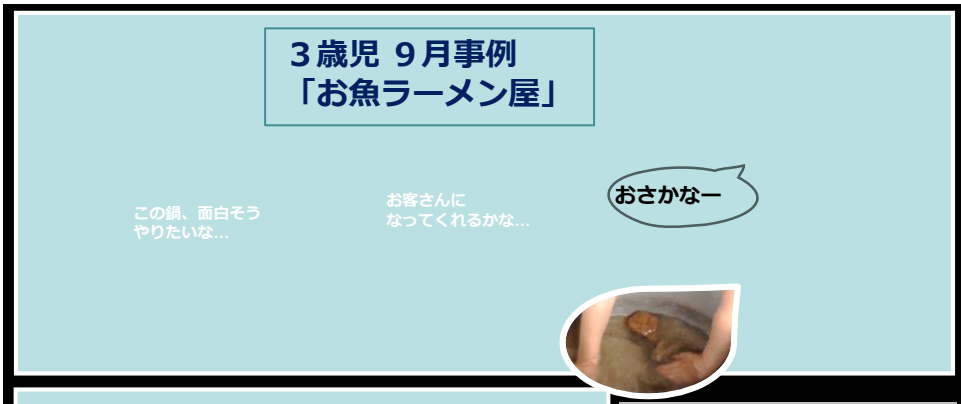
ちょこっとメモ

さて、言葉の発達とは、例えば、言葉よりも先に手が出てしまう子に対して、話すスキルを教えることを指すのでしょうか。教育要領解説においては、言葉による伝え合いは領域「言葉」のみで育まれるのではないとあります。個々の興味・関心に基づく遊びが充実していくプロセスの中で「言葉への感覚」が豊かになっていくということを、本事例の子供たちが私達に教えてくれています。

余談ですが、B児の思いが溢れ、突如自己を表出し叫び出した瞬間「素敵な場面に出くわした」と私は胸が踊りましたが、正面にカメラを持った男が現れたら、きっとこの子の警戒心が勝り、この場面はなくなってしまうだろうと察し、背後から、そっと撮影しています。

言葉の発達とは？

３歳児 ９月事例「お魚ラーメン屋」



ホームページでは写真を
公開しておりません。
ご了承ください。

①大きな鍋の中に手を入れ、A児は、ゆっくりとかき混ぜていた。私（倉岡）が鍋を覗き込むと「お料理」と、A児は呟いた。私「鍋に何か入ってるね」
A児「お魚！（大きな石）」
園庭の真ん中にポツンと置かれたテーブルに一人。A児は、気持ちよさそうに水を揺らしながら、優しくお魚を転がしていた。

②しばらくして、テーブルに女児の姿が見えた。「確かあの子…」朝の保育室の風景が瞼に浮かぶ。朝、副担任の先生と手をつなぎ、口を一文字に結び、黙りこくったまま身支度をしていたB児だ。ついさっきまで、不安そうにしていたB児…。保育室から園庭に出るまで、ずっと先生の手を握っていたあのB児が、一人、コンテナに立っている。そこへ、もう一つのコンテナを力いっぱい抱え近づいてくるA児が見えた。「A児のお魚料理の場所に…。あっ、Bちゃんきっと、何かやりたいこと見つけたんだ。これからどうなるのかな」私の心がわくわくと踊った。

ここに座ってね
お魚ラーメン食べる？

（うん）

③A児の鍋には、猫じゃらし（エノコログサ）が混ざっていた。A児の遊びのイメージがもっと広がるようにと担任が摘んできたようだ。「お魚ラーメンだよ、ここに座ってね」B児が立っていた所は、自分がお料理をする場所。A児は、B児のことをもう一つのコンテナに座らせ、お客さんになってもらいたいらしい。A児は身振り手振り、こっちだよと、B児を何とか所定の場所へ座らせ、満面の笑みを浮かべた。いつの間にか準備したお玉とお椀もある。A児はスープをそっと注ぎ、ジャポンと、大きな魚を盛り付けた。

食べたらもう
行って下さい

ぐいっ
ぐいっ

④A児のことをちらちらと確認しながら、そうっと食べる真似をするB児。その様子を見たA児は「食べ終わったらもう（Bちゃんはあっちへ）行って下さいね」と、席を立つことを指示した。ラーメンを振舞うことが楽しくなったA児は、次のお客さんを座らせたいのかもしれない。
⑤⑥B児は、言われるがままに席を立ち、一旦この場を立ち去った。しかし、B児はすぐに戻ると、突然A児のコンテナに、ぐいぐいと、無言で、無理やり上がってくる。「Bちゃんもやりたいの？」思わず私が尋ねると、うん、と、はっきり頷くB児。「担任の先生に鍋ほしいって言ってみる？」と声をかけると、頷くB児。小さめの鍋を見つけ戻ってきたB児の、ラーメンづくりが始まる。

わっせ、わっせ

みんな来て来てー!!
お魚（ラーメン）の
はじまりだよー!!

食べたいな

⑦⑧好きなことを見つけ、A児、B児それぞれが思いやイメージを膨らませて遊んでいる。楽しそうな雰囲気に惹かれた友達も数人集まってきた。状況の変化に気づいた担任が、場の再構成をしようと、わっせわっせ、子供と一緒に向こうの方で椅子（平均台）を運ぼうとしている。その光景がB児の目にも映る。とその時、B児は突然叫び出した。「みんな来て来てー、お魚のはじまりだよー！みんなー、みんなー」と。

アンケートご協力のお願い　右の２次元コードを読み取るかクリックで回答をお願いします　ココです。
発行元 お問合せ先　山形県教育局義務教育課
☎023-630-3416　✉kuraokat@pref.yamagata.jp
※１：本通信における「幼小」は、「幼児教育と小学校教育」の略称として使用